

自己評価結果シート【令和5年度】

1. 本園の教育目標

○教育及び保育の目標や理念

乳幼児の安定した生活の中で情緒の安定を図るよう努め、自己を十分に表現し発揮できるように配慮し、心身ともに豊かに成長することができるように努め、地域社会との交流や連携を図り、保護者に適した支援を行うと共に日々子どもたちの幸福の追求のために努力を惜しみません。

○教育及び保育のねらいや内容

- ・生活や遊びを通して、学ぶ事の楽しさを知り、一つ一つの体験の積み重ねの中で、興味関心を広げる。
- ・自ら考え主体的に物事に取り組み、解決していく力及び自主、自立、協力、協調の精神を育む。
- ・音楽、描画、身体表現、造形に親しむ中で、豊かな感性と表現力の芽生えを養う。

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針 教育及び保育の目標	昨年よりもさらに、YYプロジェクトが読み書きや計算に偏りがちな設定保育にならないよう、講師とのミーティングを通じて継続的に検討し、自由度の高い保育を提供できるよう研鑽に努めた。子どもたちが遊びの中で自らの主体性を発揮できるよう、日々の保育内容を見直しを通じて、子どもたち一人ひとりの成長を支援していった。
健康支援	新型コロナウイルスが5類に分類されたため、当園ではマスクの着用義務を解除したが、コロナやインフルエンザA、Bの流行を考慮し、引き続き健康支援を強化した。具体的には、園児の毎日の検温と手指消毒の徹底、おもちゃや設備の定期的な消毒、必要に応じた子どものマスク着用を実施した。また、定期的な健康観察を行い、保護者への健康情報の提供を通じて子どもの健康管理に努めた。これらの対策により、感染症予防と子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを継続的に行った。
安全管理	遊具点検や園内外の点検については毎日欠かさず実施することで、危険箇所の早期発見と改善に努めた。バスの安全対策については、バスの降車時には安全装置を使用することで、安全対策を強化した。また、スタッフには定期的な安全管理に関する研修を行い、緊急時の対応能力を高める一方、防災訓練も定期的の実施し、地震や火災などの災害時に迅速かつ適切に対応できるよう準備を整えている。さらに、緊急連絡網の整備の他、保護者連絡アプリを導入し、迅速・確実にご家庭へ連絡がいくことを徹底することで、子どもたちが安心して過ごせる環境を維持している。
食育の推進	給食については栄養士監修による献立メニューにより、栄養バランスの取れた給食を提供し、旬の食材を取り入れることで食材の多様性や季節感を学べるよう工夫した。また、子どもたちが自ら食事

	<p>を楽しむ姿勢を育むために、食事のマナーや正しい箸の使い方を指導している。食育活動の一環として、各クラス毎で野菜栽培や収穫体験を実施し、食材が育つ過程を学ぶ機会を提供できるように心がけた。これらの取り組みを通じて、子どもたちが健康的な食生活を身につけ、食に対する関心や感謝の気持ちを育むことを目指すことができた。</p>
子育て支援	<p>新型コロナウイルスの5類移行により、縮小していた子育て支援を再開することができた。定期的な子育てサークルや交流イベントを通じて、育児負担の軽減と子どもの健全な成長を目指し、保護者同士の交流と支援体制の構築を促進することができた。また、家庭との密な連携を重視し、保育の状況や子どもの成長に関する情報共有を行うことで、保護者が安心して子育てできる環境を提供している。</p>
教育・保育内容	<p>去年よりYYプロジェクトが設定保育になりがちな点に配慮し、時間の使い方に一定の自由度を設けてきたが、今年度はさらに自由度の高い教育・保育の内容を意識してきた。特に読み書き計算に関しては隙間時間を活用できるよう工夫し、空いた時間には自由な遊びを促進してきた。これにより、子どもたちが自ら学び、創造的な活動を行う機会を提供することができた。</p>
特別支援教育	<p>特別支援教育において関連機関との緊密な連携を強化し、情報共有を積極的に行った。外部機関では少人数での専門的な支援が提供されるため、細やかなニーズに効果的に対応できるが、保育園では集団での活動が中心である。外部機関ではできない、集団の中でのルールや行動規範に関する支援を強化することで、子どもたちの社会的な適応力を促進し、小学校に円滑に接続するための懸け橋となるような支援に心掛けた。</p>
職員の資質の向上	<p>職員の資質向上のため、外部機関での研修に積極的に参加した。毎月1回のYY指導を通じて職員の資質向上を図るとともに、専門的な知識の拡充を目指した。これにより、職員間での情報共有と協力体制を強化し、全体の保育の質を向上させることができた。当園が導入しているICTにより、WEBで園内研修が可能であるため、来年度はWEBによる園内研修を多く取り入れていきたい。</p>
その他	<p>本年度も多彩な外部講師による特別教室を実施し、子どもたちの発達に大きく寄与することができた。英会話教室では、子どもたちが楽しみながら英語に触れ、語学力の基礎を築くことができた。Vファーレン長崎によるサッカー教室では、運動能力の向上だけでなく、チームワークや協調性の大切さを学び、太鼓教室では、リズム感や集中力を養うとともに、日本文化に対する興味を深める機会となった。これらの取り組みを通じて、子どもたちの多方面にわたる成長を支援する環境作りになったものと思料する。</p>

3 今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み
教育・保育内容	<p> 今後は、YYプロジェクトがさらに多様な学習機会を提供できるよう、カリキュラムの柔軟性を高める必要がある。具体的には、読み書きや計算以外にも、創造的な活動や探求学習の時間を設け、子どもたちが自らの興味を追求できる環境を整備するよう努力していきたい。また、講師との定期的なミーティングを通じて、各活動のバランスを見直し、保育士と講師間の連携を強化していく。 </p> <p> 家庭との連携が重要であるため、今まであまり出来ていなかった保護者との意見交換を重視し、家庭での学びと保育園での学びを連携させる取り組みを進めていきたい。 </p>
食育の推進	<p> 今後は、食育活動をさらに充実させるため、保護者や地域との連携を強化していきたい。例えば、保護者参加型の料理教室や食育イベントを開催し、家庭でも実践できる食育のアイデアを共有など、今まで出来なかった事への挑戦を考えていきたい。また、子どもたちの食に対する興味を引き出すため、異文化の料理や伝統食の紹介など、多様な食体験に触れ、さらに、食事の時間を通じた社会性の育成に注力し、食事中の会話やマナーについても指導を強化していきたいと考える。 </p>
職員の資質の向上	<p> 今後の課題として、職員の資質向上を推進するため、研修機会の拡充と多様化が求められてくる。外部機関の研修だけでなく、内部研修や職員間の意見交換会を定期的で開催し、情報共有と相互の学びを促進していく。ICTを活用した研修プログラムを導入し、時間や場所にとらわれない学習機会を提供する。また、職員のキャリアパスを明確にし、各自の専門性を高めるためのサポート体制を整えていきたい。これにより、全体の保育の質をさらに向上することができると思う。 </p>